



全国川ごみネットワーク事務局 伊藤 浩子 さん

Q 差し支えなければ、年齢と出身地を教えてください。

A 1960年生まれの61歳。東京都文京区で生まれ育ち、現在は江戸川区に在住。

Q ごみ問題に関心をもつようになったのは何故ですか？

A 子どもが小学生の頃に、自宅近くを流れる荒川の清掃活動に参加したことが始まりです。最初は子どもたちの清掃活動を応援したく、荒川での清掃活動を運営している「荒川クリーンエイド・フォーラム」（現在はNPO法人）の世話人となり、その後2009年から2017年までは同フォーラムの専従職員を務めました。

1千万人弱の流域人口を抱える荒川では、水際の各所に大量のごみが蓄積している場所があり、特に下流域では拾っても拾っても新たなごみが流れ着く状態でした。

川のごみ問題は、拾うだけでは解決できず、拾うことに加え、発生源対策がとても重要だと感じるようになりました。発生源対策を考えていくには、川のごみ問題だけではなく、町なかのごみ問題をもっと知らなくてはならないと、ごみ問題全体へと関心が広がりました。

Q ごみかんに入会して下さったきっかけは？

A ごみ問題全体をもっと知りたいと思い、縁あって「容器包装の3Rを進める全国ネットワーク」の運営委員となりました。そこ

でごみかん役員の小野寺勲さんにお会いして「ごみっと・SUN」をいただきました。さまざまな統計データを整理し分析して説明された掲載情報などに興味を惹かれ、また東京都西部地域の市の清掃事業のことなども知りたい思いで入会させていただきました。

Q ごみ問題に関わることで、趣味や生きがいは？

A 十数年前から近所のスポーツクラブの会員となり、定休日以外は都合が付く限りほぼ毎日のように通っています。ヨガ、ダンス、格闘技系、ウェイトトレーニング系など広いスタジオで音楽に合わせ大勢で身体を動かすようなそれぞれのプログラムに参加します。

身体は硬くて思うようには動かなくとも、自分の体力に合わせて自分なりに精一杯に動いて大汗をかいて、爽快感を楽しんでいます♪

Q 特筆すべき近況があれば、教えてください。

A 川ごみの発生源対策を進めようとした時に、ひとつの河川だけで対応できる問題ではないと感じ、他の河川で活動している仲間たちとゆるやかなネットワークを組み、全国的な活動を始めました。

5年ほど前に「NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム」の事務局は20歳以上若いスタッフに世代交代し退いて、「全国川ごみネットワーク」の事務局を担っています。

全国川ごみネットワークでは『水辺のごみ見つけ！』と称して、川や水路、海、湖沼などの身近な水辺で3項目（飲料ペットボトル、レジ袋、カップ型飲料容器）のごみ個数調査



を全国的に呼びかけ、毎年その結果を取りまとめ発信しています。

(上) 調査結果の報告シート。HPからダウンロードできます。
(下) PCやスマホで入力できるフォームはこちらのQRコードから。

調査期間は4月から11月までで、多くの皆さまのご参加を願っています。団体でも個人でもどなたでもご参加いただけますので、ぜひお気軽にご参加ください（詳細は「水辺のごみ見つけ」で検索ください）。

また、川ごみサミットを開催するなど、産学官民が共に川や海ごみの削減に向けて考えていくことを推進しています。

第7回となる2021年度は「市民と河川管理者が協働で川ごみ対策に取り組むために」と題して、多くの河川管理者もご参加いただき情報交換・意見交換を行いました。

海洋プラスチックごみ問題が世界的な環境問題として大きく注目されるようになり、川や町なかでもその対策が迫られるようになりました。ネットワークを通じ、さまざまなセクターと共に解決策を模索し取り組みを推進するよう活動しています。

全国川ごみネットワーク
<https://kawagomi.jp/>